

大自然に息づく、きびしくも美しい
性の世界！

深い神秘のなかに
無限の感動、スリルが

ひろがる：

文部省特選



The Best of Walt Disney's True-Life Adventures

ウォルト・ディズニーの
名作記録映画《総集編》

【カラー作品】

日本語
解説版

大自然の驚異

© Walt Disney Productions



ブエナ・ビスタ
映画配給

Buena
Vista

新春第2弾1月15日(祝)よりロードショー！

有楽町
日劇前
シネマ1
(571)
1946

伊勢丹前
新宿文化
(351)
3414

◆40名のカメラマンが、アメリカ大砂漠、北極の島
アフリカの野獣王国、滅びゆく大草原に苦辛の長期ロケ！

ウォルト・ディズニーの名作記録映画〈総集編〉

大自然の驚異

© Walt Disney Productions

日本語解説版／カラー作品

上映時間 1時間29分

日本語解説 高島 陽

文部省特選

かいせつとあらすじ

ウォルト・ディズニー（1912～60年）の映画製作としての偉大さは、彼が切り拓いた二つのジャンルにいまもサン然と輝いています。

ひとつは世界の漫画王として動画の世界に築いた不動の位置。もうひとつは自然と動物の記録映画に残した輝やかしい足跡です。しかもこの二つをとおしていきいきと訴えられるもの。それはディズニーの動物たちにそぞく限りない愛情であり、ディズニーこそは動物と大自然を愛するゆえに新分野の開拓者となつた偉大な映画製作だつたといえるでしょう。

ウォルトは最初、漫画映画の製作者として世紀的な名声を確立しました。しかしそのあくことのない開拓的な探求心は、やがて果てしない神秘さにみちた大自然の驚異に眼をひらかせました。

初期の短編漫画シリーズ「ミッキー・マウス」でネズミを世界的な人気者に仕立てあげたウォルトは、以後の漫画映画の世界でもさまざまな動物たちを、人間と同じような喜びや悲しみを味わう存在として描き続けました。そしてその動物にそぞく愛情の眼は、自然界的な動物の生態をとらえる一連の記録映画でもひき強く押しされ、自然と動物保護の問題を訴える重要な役割りを果たしました。

ウォルト・ディズニーは十余年の間に自然の驚異と動物の生態をさぐる貴重な長・短編の記録映画をシリーズとして次ぎつぎに発表しました。「大自然の驚異」と題されたこの二記録映画の集成版の価値をもつていま

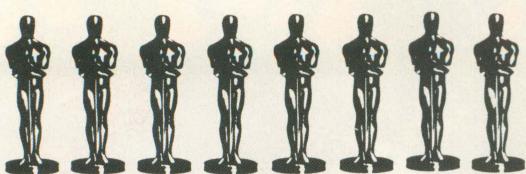
その13本の記録映画の傑作は、年度順にあげますと(1)あざらしの島(1949) (2)ビーバーの谷(1950) (3)大自然の片隅(1951) (4)高原の大鹿(1952) (5)水鳥の生態(1952) (6)熊の楽園(1953) (7)鰐の王国(1953) (8)砂漠は生きている(1953) (9)滅びゆく大草原(1954) (10)ア

メリカン・ライオン(1955) (11)生命の神秘(1955) (12)白い荒野(1956) (13)ジャングル・キャット(1960)。——これらはいずれも発表年度のアカデミー賞の作品にあげられ、うち8作品が長・短編のドキュメンタリー部門の賞に輝いています。

さてディズニー記録映画の集成版「大自然の驚異」は、偉大な製作家ウォルト・ディズニーに対する献辞にはじまり、大自然の叙事詩の幕をあけます。

まずスクリーンにうつしだされるのは広大なアメリカ大平原。カメラはその平原の一隅にくりひろげられるロツキー山の正面衝突、轟々とひづめの音をひびかせる水牛の群れの疾走をとらえ、またインディアンの踊りそつくりの雷鳥の舞踏、その太鼓の音を思わせる羽ばたきを追っていきます。この最初の部分では典型的な渡り鳥であるガンの列や北米産のツルの求愛の儀式もみものです。

次ぎに舞台は一転して北米の大砂漠地帯。ここではスマバチと舞踏グモの命がけの闘い、サソリの奇妙な求愛のダンス、エダツノカモシカを追う山猫がイノシシに追わられて逃げだす鬪争図、赤い尾のタカがガラガラ蛇を餌食にする凄まじい砂漠の死闘など。



アカデミー賞受賞の8作品！

- ▶ あざらしの島
- ▶ 熊の楽園
- ▶ 白い荒野
- ▶ 滅びゆく大草原
- ▶ ビーバーの谷
- ▶ 水鳥の生態
- ▶ 砂漠は生きている
- ▶ 大自然の片隅

——季節が変わることに、生命がある限り大自然の驚異は人間を魅惑し続け、永久に驚異と神秘と美のみなもととなるだろう。

次の舞台は南米アマゾン流域のジャングル。この陽の光も届かない深いジャングルでは風変わりな動物たちが主役で、あらゆる種類のサル、珍らしい小鳥にオオアリクイやナマケモノが登場します。またジャングルの危険な猫、ジャガーの恐るべき殺し屋が息をのませ、アメリカ鰐との死闘のあとに沼地の蛙ののどかなコーラスがひびきます。

アマゾンに別れをつげると、今度は北極にひとっ飛び。北極熊とセイウチの生態がみもので、他に氷の大地に生息するオオカミ、トナカイ、クズリ、レミングも描かれます。

最後は海鳥の生態の観察で、渡り鳥のナゾにもう一度触れて、次の結びのことばで終ります。